

人権特集

「つながりを感じることで」

子育て講演会 講師・仲島正教さん



「あーよかつたな、あなたがいて」

十一月十八日、日吉町生涯学習センターで、今年発足した南丹市PTA連絡協議会の主催による子育て講演会が行われました。十二月の人権週間にちなんで、仲島正教さんの講演内容を広報特集としてお届けします。

赤ちゃんが生まれた時から

人権教育がスタートしていま

す。生まれた時から人権教育を受けなかつた子どもは、後からしんどい思いをします。

「子育て＝人権教育」……です。

小学校に入學してから人権を学ぶことには、例えばこん

なことがあります。

入学して初めて出会う人が

います。こんな元気な子は見ることがないという子、おとなしい子、時には足の不自由

な子と出会います。そんな子

を見て、他の子どもたちは、「あの子、何か変やなあー」、

「変な足やあ。人間違うみたいやなあー」……と、言ったりします。僕は慌てて「そんなん言うたらあかん」と言うのですが、もっと大事なものはこの後なんです。

勉強を一緒にするようにな

ります。遠足に行ったり掃除したり、そんなことをしながら、だんだんつながっていくんですね。やがて、「僕らしい仲間やな、あの時あんなこと

言っでごめんな。足が不自由なんて関係ない。同じ仲間や、

友だちや！仲よろしゅう！」

ってなつて行くんですね。これが人権を学ぶ上で一番大切なことなんです。

五年生の時にも、人権の勉強をするのですが、何でこんな勉強をするのかって言うと、

「優しい人になるためや」っていう授業をするわけなんです。

「優」には深い意味がある

「優」の字を黒板に書いて、「優しい」という漢字は「イ